

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校

- 1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
- 2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
- 3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立

- (1) 生徒実態の把握（学力、生活、健康）
  - (2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化
  - (3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し
    - ア 生徒の実態やニーズを見据えた・募集人数の適正化
    - イ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化についての検討
- \* 運営委員会を毎週開催し、各種課題解決に向けて実動し、H27 年度までに現行課題の 75% を処理する。  
\* 学力実態の把握に向け、学力診断テストの試行を行い、H27 年度には完全実施する。  
\* 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化について府教育委員会と協議を継続する。

## 2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成
  - ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開
- (2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容の検討と改善
  - ア 一人で取り組める完成しやすいレポートの作成
  - イ レポート作成に役立つスクーリングの展開
  - ウ 研究・公開スクーリングの実施
- (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入
  - ア 基礎学力不足の生徒に対する学習支援策の検討・確立
  - イ スクーリングに出席できない生徒等のサポート体制：ICT を活用した e-ラーニングによる教育システム（スタイル）の研究、試行、実施
  - ウ 進学希望者に対する学習支援策の検討・確立
- (4) 教職員研修の充実
 

\* 生徒向け学校教育自己診断におけるレポート、スクーリングに関する肯定的評価を毎年 3% ずつ向上させ H27 年度には 90% をめざす。  
\* 1 範囲をクリアした生徒の全教科平均の単位修得率を毎年 5% ずつ向上させ、H27 年度には 80% をめざす。  
\* 研究・公開スクーリングの教科毎の開催について、H27 年度には実施率を 100% とする。

## 3 生徒支援と相談体制の強化・充実

- (1) 生徒及び保護者との面談・懇談や相談会の実施
- (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有
- (3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施
- (4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及び情報伝達環境の整備
- (5) 精神科医及び臨床心理士や S C 等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り
 

\* 生徒向け学校教育自己診断における「困った時に相談できる先生がいるか」の肯定的評価を H27 年度には 75% をめざす。  
\* 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活はあなたにとって有意義なものになっていますか」の肯定的評価を H27 年度には 80% をめざす。

## 4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実

- (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施
- (2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実
- (3) 総合的な学習の時間の新たな目標設定と有効活用
 

\* 教職員向け学校教育自己診断における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう系統的な進路指導が行われている」の肯定的評価を H27 年度には 75% とする。

## 5 情報発信・広報活動の充実

- (1) 情報発信の充実
  - ア HP、携帯連絡メール（桃通メール）、桃谷通信の内容充実
  - イ インフォメーションディスプレイの活用
- (2) 広報活動の充実
  - ア 学校説明会の充実

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 10 月実施分]				学校協議会からの意見	
診断結果の一部抜粋 *表中の数字は、回答の%を示している。 【通信制の学習システムについて】				第 1 回 平成26年 7 月 28 日（月）午後 6 時から午後 8 時まで 〈委員〉 ・進路未定の生徒のうち、どれくらいの生徒がキャリア教育支援体制整備事業を活用しているのか⇒しごと応援講座10名参加、新入生対象キャリア保護者説明会12名参加、仲間づくり講座各回 8 名参加 〈委員〉 ・ほっこりピーチ会はどのような体制でやっているのか⇒教育相談担当が中心で行	
項目	教員	生徒	保護者		
通信制の学習システムが理解できているか	64.6	96.8	79.3		
(昨年度集計)	60.0	97.2	83.0		
(増減)	+4.6	-0.4	-3.7		
*教員へは生徒の、保護者へは生徒と保護者自身の理解度を問うている。 *生徒は、学習が進んでいない生徒の、その理由でシステムが分からないと答えた生徒の割合を引いたパーセンテージ。					

## 府立桃谷高等学校

## 【学習について】

項目	教員	生徒	保護者
レポートは一人で完成できる内容となっているか	100.0	91.5	・・・
(昨年度集計)	92.0	89.0	・・・
(増減)	+8.0	+2.5	・・・

項目	教員	生徒	保護者
添削は学習の理解を深めるのに役立っているか	89.8	86.3	・・・
(昨年度集計)	94.0	85.0	・・・
(増減)	-4.2	+1.3	・・・

項目	教員	生徒	保護者
スクーリングは分かりやすく学習の助けになったか	95.9	89.3	・・・
(昨年度集計)	93.9	87.9	・・・
(増減)	+2.0	+1.4	・・・

## 【生徒の状況】

項目	教員	生徒	保護者
レポートの提出期限を守れない生徒が多い	70.0	・・・	・・・
(昨年度集計)	68.0	・・・	・・・
(増減)	+2.0	・・・	・・・

## 【組織体制について】

項目	教員	生徒	保護者
教育相談体制が整備されている。	92.0	64.4	・・・
(昨年度集計)	84.0	60.8	・・・
(増減)	+8.0	+3.6	・・・

\*生徒は「気軽に、質問や相談できる先生はいますか」を反映

項目	教員	生徒	保護者
生徒指導において、家庭及び関係諸機関との緊密な連携がとれている。	68.8	・・・	・・・
(昨年度集計)	57.1	・・・	・・・
(増減)	+11.7	・・・	・・・

項目	教員	生徒	保護者
問題行動発生時の対応体制が整っている	60.0	・・・	・・・
(昨年度集計)	56.0	・・・	・・・
(増減)	+4.0	・・・	・・・

通信制の学習システムは、レポート（添削指導）とスクーリング（面接指導）からなっている。勉強の仕方やレポートの書き方・提出方法などについて、生徒はほぼ理解しているが、保護者には引き続き丁寧な説明を行っていく必要がある。

自学自習が大前提となる通信制では、入学者の低年齢化（不登校等を理由に通信制を選択する者の増加）に伴い、自学自習という基本姿勢が希薄な生徒が増加している。その影響の一つとしてレポートの提出期限を守れないと感じる教員の割合が昨年度から上昇、一昨年度に比べれば40.0ポイント増加している。提出期限を守るように、効果的な指導法・連絡方法を検討する必要がある。

レポート添削に関する肯定的評価が昨年度と比較して、「一人で取組める内容となっている」では、+2.5%、「添削が学習の理解を深めるのに役立っているか」では、+1.3%となっているが、8割を超える生徒が満足している。スクーリングにおいても、「スクーリングは分かりやすく学習の助けになったか」では、9割近くの生徒が満足感を得ている。これは、多様なニーズを持つ個々の生徒に対して、教員が個別指導を中心とした手厚いサポートを行なっているからと考えられる。

教員評価において、「レポートは一人で完成できる内容となっているか」、「スクーリングの内容は、生徒のレポートの完成の手助けになっているか」で、若干の増減はあるものの、2回の公開スクーリング見学期間や各教科で実施した研究スクーリング、また添削レポートの公開により、自分の教科だけでなく他教科のレポート添削やスクーリングに触れる機会が増えるなど、相互研鑽した結果が良い方向に向いてきたと考えられる。

生徒相談体制については、9割以上の教員が、「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。」と捉えている。しかし「気軽に、質問や相談できる先生はいる」と答えた生徒は昨年より3.6ポイント上がっているものの64.4%となっており、教員と生徒の意識に依然として開きがあり、引き続き生徒が質問・相談しやすい職員室、面接指導室及び相談室の環境整備、並びに教員の意識改善を行う必要である。

新設した特別支援委員会が中心となり、希望する生徒・保護者と面談を行い、支援を必要とする生徒の「個別の支援計画」を作成、継続的な支援を行った。その結果、支援生徒達の学習進行状況が良好であったことなどから、「生徒指導において、家庭及び関係諸機関との緊密な連携がとれている」の肯定的評価が昨年度より11.7ポイント上昇した。来年度も引き続き実施したい。

また、「問題行動発生時の速やかな体制が整っている」と考えている教員は、昨年度から4ポイント増え、一昨年度の33.3%からは60.0%へと飛躍的に増えた。昨年度から取り組んできた組織的対応の強化が実りつつあることを示した数字であると思われる。引き続き、生徒状況の把握とともに問題事象に対して組織的対

い、保健主事、担任、教頭が保護者へ、また、上級生の保護者が下級生の保護者へアドバイスすることなどや、保護者同士の情報交換等を中心に活動している。

〈委員〉

・個別の支援計画については成長の流れが見えるものを幼稚園から作成し、幼少中連携が必要。そのうえで高校へ連携することが大切である。

〈委員〉

・「生きる力」を育むという方針はよいが、「学ぶ力」をあげるということは教員側の視点ではないか。生徒の自主性を育むために、どのように生徒を支援していくのが大事になると思う。

第2回 平成26年12月3日（水）午後6時から午後8時

〈委員〉

・NHKの高校講座の活用というのは、生徒が家庭でTVを見るということか。⇒家庭での視聴、スクーリング中での視聴、両方を考えている。学習指導要領の中でも放送視聴に関する規定があり、スクーリング回数に加えることも検討の余地がある。スクーリング中に視聴している学校もあり、今後活用していける可能性はある。また、内容が充実しており大変わかりやすいので、自学自習の助けになる。スマートフォンで見ることが出来るようになり、昨年度から各講座の内容がチャプターごとに分けてあり、必要な部分を繰り返し視聴することができるようになっている。

〈委員〉

・反復して見ることができるのは良い。不登校の子どもにも、学べる機会を与え、そこにも学べる環境を作れば、生徒のためになる。⇒補足だが放送法の改変により、義務教育段階のものから過去の映像を見ることができるようになる。

〈委員〉

・支援カードについて、説明を聞きたい。62名からの選び方を知りたい。⇒62人は支援を望むと意志表示をした生徒の人数。62人全員に支援委員が電話をかけて確認した。面談の対象としたのは、本校に入学する前に、身体的、精神的等の理由があり、支援が必要と判断した人。ただ勉強のやり方を教えてほしい、単位の取り方を教えてほしい等通信の学習方法を知りたいとしている人は、対象としなかった。

以上の流れから、4者懇談をすぐに希望した26名を対象とし、全員と面談を行った。

面談を行った際には、不安でいっぱいの人ばかりであった。しかし成績の追跡調査をした結果、現在、24名の学習が順調に進んでおり、20名については全科目の単位修得が見込まれている。この結果に、支援委員も驚いている。年度当初に、生徒の不安を取り除いたことが良かったのではないかと。

〈委員〉

・社会の新科目について説明を聞きたい。⇒「社会入門」を創設。小・中学校の学習が満足にできず学習に困難を感じている様子があった。主に中学校段階の内容の基礎科目。今後、社会科内で内容を精査し、1年次に学習できるよう状況を整えていきたい。

〈委員〉

・情報発信について、携帯メールの活用を知りたい。⇒桃通メールについて。従来、郵便物での案内はしてきた。それを重ねて周知するため、期日等の確認のメールを配信している。こまごまとした内容をメールしているわけではないが、概要が確認できるような内容になっている。

〈委員〉

・一斉メール、利用価値がある。例えば、私は患者に連絡先を公開しているが、言葉が苦手な人にとってはメールで気持ちを伝えられる。しかし、大変な側面もある。LINEの活用も検討しているが、現代の状況を考えれば、そこでしかできない子もいる。大変だとは思いますが、学校でも活用を検討できるかもしれない。

第3回 平成27年2月9日（月）午後6時から午後8時

〈委員〉卒業後の社会や学校とのつながりが難しい。社会適合の状況について教えてほしい。

⇒就職希望30名中20名近くは採用が決まり、現在指導中の生徒もおり内定が増えつつある。進路部主催の「声劇ワークショップ」などでコミュニケーション力育成の研修を行っており、ソーシャルスキルの育成が必要な生徒が多数在籍。力をつけて社会に送り出すことが大切と考えている。

〈委員〉通信制の生徒は卒業したあとが問題。行政が中心となってステップスクール（アフタースクール）を作る必要があると思う。

〈委員〉私は同窓会役員で生徒と関わりがある。地域の多くの経営者（委員もその中の一人）に桃谷高校に関わってもらえるよう考えていきたい。

〈委員〉コミュニケーション能力は「生徒と保護者との関わり」が一定関係するので、生徒支援だけでは不十分であるのでは。

〈委員〉保護者のインターネット上のグループを作成するなどして、親同士の意見

## 府立桃谷高等学校

<p>応ができるよう体制強化に努めたい。</p> <p>今年度の学校教育自己診断では、生徒 279 名、保護者 88 名、教員 51 名から回答を得た。生徒からは、昨年度より 30 名ほど多くの生徒からの回答を得ることができたが、約 1900 名の活動生徒の割合からするとまだまだ十分な数ではない。このことから通信制におけるアンケート調査活動の困難さを示しているといえる。今後も、実施方法について更に検討、工夫し、回答率の向上を図りたい。</p>	<p>交換を組み入れてみては。</p> <p>⇒本校の「ほっこりピーチ会」はそれに相当するグループで、約 60 名の保護者の情報交流の場になっている。</p> <p>&lt;委員&gt;通信制高等学校だけの教員の研究会はあるのか。そこで卒業後の進路のことは課題として取り上げているか。</p> <p>⇒近畿地区高等学校通信制教育研究会（近通研）という組織があり、その中の進路部会において各校の課題について研究協議を行っている。また、今年度はNPO法人が通信制生徒の卒業後のアンケートを実施しているので、その集計結果が出れば参考にしたい。</p>
---	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する 教育システムの確立	<p>(1) 生徒実態の把握</p> <p>(2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化</p> <p>(3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し</p>	<p>(1) 学校教育自己診断について ア、実施時期の早期化。分析結果を次年度の経営計画に十分に反映させるため実施時期を 10 月に早めて実施する。 イ、入学生が通信制の学習を円滑に進められるよう、入学時の基礎学力の把握（基礎学力診断テスト等）に取り組むとともに、学習支援の在り方について検討する。</p> <p>(2) ・運営委員会を更に機能強化し、改革すべき諸課題について引き続き検討を進める。 ・運営委員会メンバーを核とした校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの活動内容の充実を図る。</p> <p>(3) ア、イ、 ・募集人数の適正化及び機能強化について、引き続き校内議論を進め、府教育委員会と協議していく</p>	<p>(1) ア 自己診断の 10 月実施 イ 国・数・英での基礎学力診断テストの実施 実施率（中卒 1 年次での実施率 75%）</p> <p>(2) 運営委員会の毎週開催 ・組織運営に係る各種校内規定等の見直し数 ・校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの取組内容とその件数</p> <p>(3) ・府教委との協議回数</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断を 10 月に実施し、昨年度より 30 名増の 279 名から回答を得ることができた。分析結果を教職員と情報共有し、次年度教育計画に生かしたい。(○) イ 英語科において 1 年次科目の最初のスクーリングで実施。その他の教科については入学時の担任との受講指導時での面談で選択科目を選択した。(○)</p> <p>(2) ・本年度各種校内規を大幅に見直し、改訂した。(○) ・運営委員会内の学校評価推進チームにおいては、学校教育自己診断、スクーリング評価、レポート評価について話し合い(5回)を進め実施した。校務運営推進チームは、各分掌からの総括報告や次年度教員の人員配置などを鑑みチーム会議を 3 回開催し、各分掌の仕事内容の精査や適性人数案の作成を行った。(○)</p> <p>(3) 平成 25 年度入学者選抜において、実施した募集生徒数の改善（中卒昼間部生徒数 30 名増、中卒日夜間部生徒数 30 名減）により、中学生のニーズに一定対応することができている。一方、日夜間部の定員割れの状況について改善策の検討を行った。(○)</p>

## 府立桃谷高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上</p>	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成 ア 各教科科目の基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設の検討と展開</p> <p>(2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容の検討と改善 ア 一人で取組める完成しやすいレポートの作成 イ レポート作成に役立つスクーリングの展開 ウ 研究・公開スクーリングの実施</p> <p>(3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入 ア 基礎学力不足の生徒に対する学習支援策の検討・確立 イ スクーリングに出席できない生徒のサポート体制 ウ 進学希望者に対する学習支援策の検討・確立</p> <p>(4) 教職員研修の充実</p>	<p>(1) ア ・「確かな学力」を育成するため、基礎的内容を分かりやすく学習できる科目開設を含む平成 28 年度教育課程の検討。</p> <p>(2) ア・イ ・H25 年度に実施したレポート及びスクーリング評価の結果、学校教育自己診断の結果の分析を通し、レポート作成及びスクーリング内容に反映させる。 ・教科会議の充実と教科・科目の取組み目標を明確化 ・レポート及びテスト内容の点検、改善体制の検討</p> <p>ウ 全スクーリングの公開化、教科内研究スクーリングの実施。 ・スクーリング見学月間の実施（年 2 回、6 月、11 月） ・教科内研究スクーリング後の研究協議内容について、全教員で共有及び意見交換する機会をもつ。（1 範囲中）</p> <p>(3) ア ・スクーリングの無い日や時間、夏季休業期間等を利用した取組みの検討・実施（補充・補習・集中スクーリング等）。実施教科の拡大 ・面接指導室の整備 ・学習支援室の設置</p> <p>イ ・ICT を活用した e-ラーニングによる教育システムの試行 ・NHK 高校講座の活用と生徒への広報</p> <p>ウ ・国・数・英の進学者対象講習の実施</p> <p>(4) 多様な生徒実態に焦点を当てた研修を企画・実施し、生徒理解を深め、その実態に応じた指導内容の創造及び工夫に努める。また、ビジネスマナー研修を導入する。</p>	<p>(1) ア ・新規科目の開設</p> <p>(2) ア・イ ・生徒によるスクーリング評価 80 点以上・レポート添削評価 60 点以上がそれぞれ全教員の 8 割以上</p> <p>ウ ・学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価が 85% 以上</p> <p>イ 新規取組みの実施内容</p> <p>ウ 取組みに対する参加生徒数</p> <p>(4) 研修回数、参加者数・率</p>	<p>(1) ア ・平成 27 年度教育課程から、公民科の学校設定科目において、確かな学力の育成のため「倫理講読」を「社会入門」に変更して開設する。平成 25・26 年度入学生も教育委員会に追加申請し了承を得た。(◎)</p> <p>(2) ア・イ ・生徒によるスクーリング評価については 80 点以上が 86%、レポート添削評価については 60 点以上が 92% であり、目標の数値には達している。来年度の目標値を見直したい。(○)</p> <p>ウ ・6 月スクーリング見学月間では全教科で研究スクーリングを実施した。また、その報告を基に 7 月に小グループで「ほめ方」をテーマに話し合いをする教員研修を実施、今後のスクーリング改善に向け有意義なものとなった。(○)</p> <p>・スクーリング見学月間における見学者は 6 月 46 人（90%）、11 月 49 人（98%）であった。その感想をまとめて教員にフィードバックした。(◎)</p> <p>(3) ア・イ・ウ ・夏季休業中に、英語科で 4 日間 12 名、数学科（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学 A、数学 B）で延べ 9 日間 28 名が進学者講習に参加、また地歴・公民科では 2 日間 20 名、商業科では 14 日間 20 名がレポートを中心とした補習に参加した。(○)</p> <p>・また工業科、情報科において資格取得対策講座をそれぞれ実施した。(○)</p> <p>* 小型フォークリフト取扱講習会 2 日間 21 名受講修了 * 小型車両系建築機械講習会 2 日間 11 名受講修了 * 危険物取扱者試験 対策講習会 8 日間実施 10 名参加 ⇒乙種各種合格者 2 名 * 「パソコン検定」 対策講習会 19 日間実施 11 名参加 ⇒3 級 8 名合格</p> <p>・面接指導室、学習支援室の整備については、職員室に指導エリアを設置した結果、生徒の来室が増えるなど生徒支援に有効活用できた。(◎)</p> <p>・NHK 講座について、「総合学習」において図書・総務部からその有用性と活用方法について生徒に周知、説明を行った。約 50 名の生徒が出席し学習への関心の高さが分かった。来年度にはさらに多くの生徒に周知したい。(○)</p> <p>(4) 職員研修については、例年の人権研修の他、スクーリングの焦点を当てた研修を 2 回実施（小グループでの協議含む）した。また、「基礎学力定着に向けた支援」及び「日・夜間部の志願者数増加に向けて」をテーマにした研究協議を行い、いずれの研修でも来年度に実施できる取組みの発表もあり充実した研修となった。(○)</p>
--	--	--	--	--

## 府立桃谷高等学校

3 生徒支援と相談体制の強化・充実	<p>(1) 生徒及び保護者との面談・懇談や相談会の実施</p> <p>(2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有</p> <p>(3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施</p> <p>(4) 校内における正確な生徒の状況把握に基づく危機管理体制の強化及び情報伝達環境の整備</p> <p>(5) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り</p>	<p>(1) 生徒及び保護者との面談・懇談を通して、生徒支援カードを基に要配慮生徒への取組体制を、担任・分掌が連携し、保護者連携も視野に入れた組織的な取組みへと高めていく。 ・中卒新入生の三者面談を実施する</p> <p>(2) 健康調査の結果、必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有すると共に生徒の生活改善や個別の支援計画作成に活用する。</p> <p>(3) 第1、第2範囲当初(5、10月)に研修会を開催、その他関連する勉強会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かしていく。</p> <p>(4) 出校管理システムに加え、統一的なスクーリング出席管理システムを新たに検討、試行する。(担任が出校状態だけでなく、スクーリング出席状況も把握できるシステムの構築) ・生徒問題行動発生時の組織的対応の構築と強化</p> <p>(5) 本校生を多く担当している専門医・SCや保護者と生徒の心身に重点を置いた連携を強化することで生徒支援を充実する。 ・相談室の環境整備と広報の充実</p>	<p>(1) 面談・相談回数</p> <p>(2) 要配慮生徒対象の個別面談実施回数 ・対象者の個別支援計画の作成率(100%)</p> <p>(3) 研修・勉強会等実施数</p> <p>(4) システムの試行・導入  ・シミュレーションや研修会の実施回数</p> <p>(5) 面談、相談回数 ケース会議の実施回数</p>	<p>(1) 今年度から実施を推奨している中卒新入生の三者面談については実施率が26.1%(69名/中卒新入生317名中未成年生徒264名)であった。来年度は教員の意識改善を行い、実施率の向上に努めたい。(△)</p> <p>(2) 生徒支援カードに支援希望と申請した生徒62人に対し聴き取りを行い、26人の個別面談を行い個別の支援計画を作成した。その支援計画にのっとって支援している生徒の学習状況は順調に進んだ。(◎)</p> <p>(3) 5月の教職員人権研修において、特別配慮生徒について情報共有に努めるとともに、緊急対応についての理解を深めた。また、臨床心理士による「不登校、引きこもりへの効果的対応について」をテーマにした研修を6月と12月に2回実施した。(○)</p> <p>(4) スクーリング出席管理システムについては、来年度実施に向けて、全教員がシステムを利用し、来年度完全実施に向けてシミュレーションを行った。(○)</p> <p>(5) SCとの面接については、30件36名となっており、昨年度に比べ増加。ケース会議はSC来校時に行い23回行った。また、本年度は特別支援委員を設置して、個別の支援計画を作成した26人に対応するケース会議を5回開催した。(○) ・相談室への相談件数は20件(20名)となっている。学校教育自己診断結果を踏まえ、質問や相談のしやすい雰囲気づくりを行っていく必要がある。(○)</p>
4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実	<p>(1) 生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施</p> <p>(2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実</p>	<p>(1) 「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し、A「ワーク創造館と連携を行い、キャリア前教育を行う。(社会に出たときに必要な人間関係形成能力を身につけるための講座を開設する。)</p> <p>(2) ・進学希望者、就職希望者対象講習の実施 ・保護者向け進路説明会の開催</p>	<p>(1) キャリア前教育として実施する講座の開設講座数及び講座への参加者数</p> <p>(2) ・開設講習数及び講習への参加者数 ・保護者向け進路説明会の開催と参加者数</p>	<p>(1) キャリアコーディネーターが週3日常駐し、進路相談や面接指導等を行った。5～7月にかけては自己の進路に関する相談など104名が、8～12月には就職面接指導などで111名の生徒が相談に訪れた。また、6月にはコミュニケーションの苦手な生徒を対象に「声劇を体験してみよう！」講座を開催し、12名の生徒が参加し積極的に声が出せるようになったとの喜びの感想もあった。3範囲にも3回の「声劇ワークショップ」講座を開催、7名が参加してコミュニケーション能力の向上に一役を担った。 また、10月には「しごと応援講座」の6名、11月の「ビジネスマナー講座(ともに就職活動、アルバイト就労の面接などで役立つビジネスマナーを実践的に学ぶ)」に3名の生徒が参加しコミュニケーション力の育成を図った。(◎)</p> <p>(2) 5月に保護者、生徒向けの説明会を開催、15名の参加があり、今後の進路指導・支援方針、キャリア教育支援体制整備事業の説明を行った。初めての取組みのため、参加者が少なかったが、来年度も引き続き実施したい。(○)</p>
5 情報発信・広報活動の充実	<p>(1) 情報発信の充実 ア HP、携帯連絡メール(桃通メール)、桃谷通信の内容充実</p> <p>イ インフォメーションディスプレイの活用</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア 学校説明会の充実</p>	<p>(1) ア ・HPに全教科のページを設け、内容の充実を図る。 ・携帯連絡メール(桃通メール)を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。 ・担任とクラス生徒との連絡手段の充実を図る。</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイの有効活用</p> <p>(2) ア ・統一された内容の説明を行うため、説明会用スライド及び学校紹介用DVDの改善・充実。</p>	<p>(1) ア ・教科開設ページ100% ・HPへの年間アクセスカウント ・携帯連絡メール(桃通メール)への登録件数と発信回数</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイの更新頻度</p> <p>(2) ア ・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の解り易さ」肯定的評価8割</p>	<p>(1) ア ・数学・社会・保健体育・英語・外国語・家庭・情報・工業・音楽の9教科において、教科のページを開設し、教材のダウンロードや講習会の案内を行っている。(○) ・年間アクセスカウント数は一昨年度の約116,661回(一日平均320回)、昨年度から教科のページを開設するなどHPの充実を図り昨年度154,956回(一日平均425回)、今年度は2月末までで143,029回(一日平均428回)と飛躍的に伸びている。 ・桃通メールには現在700名を超える登録があり、教務連絡や学校行事案内を中心に年間46回のメール発信を行い、生徒、保護者への情報発信に努めた。(○)</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイ掲載の情報管理の効率化を図り、掲載漏れの無いように改善を図った。教務連絡や行事、講習会等の案内にも役立っている。(○)</p> <p>(2) ア ・10月の第1回目の学校説明会については、学校紹介用DVDを作成、活用した。また、説明用スライドの内容精査、改善を行い、一斉に説明を行った。「解り易さ」肯定的評価は9割(95.4%)を超え好評であった。第2・3回目は6教室での分割実施とした。「解りやすさ」はいずれも95.6%、93.3%となっている。(○)</p>